

国際エネルギー機関(IEA)・オマーン政府共催

「中東・北アフリカのエネルギー転換に関する閣僚対話」

鷺尾外務副大臣挨拶

(和文仮訳)

ビン・ハマド・アル・ルムヒ大臣、ビロルIEA事務局長、本日は、「中東・北アフリカ地域におけるエネルギー転換」をテーマとした閣僚対話にお招き頂き、心より御礼申し上げます。2050年カーボンニュートラルの実現に向け、世界が脱炭素化に向けた取り組みを加速する中、この地域におけるエネルギー転換をテーマとする閣僚対話の開催は、まさに時宜を得たものです。

日本は、中東・北アフリカ諸国との間で、長年に亘りエネルギー分野での良好な協力関係を築いて参りました。近年、エネルギー以外の分野における協力関係も益々進展しています。

脱炭素化に向けたエネルギー転換の促進は重要な課題ではありますが、エネルギー安全保障の確保を大前提として進めるべきことは言うまでもありません。地理的な条件や発展の度合いは各国毎に異なり、再生可能エネルギーの推進に向けたポテンシャルにも大きな違いがあることを

考慮する必要があります。

その観点から、日本は IEA に約 5 百万ユーロの任意拠出を実施し、中東・北アフリカ諸国を含む産油国や新興国に対するエネルギー転換を支援するプロジェクトを推進しています。

また、世界がエネルギー転換を進める過程においても、石油、天然ガスなどの化石燃料資源の役割が直ちに低下する訳ではありません。特に天然ガスについては、益々増加するエネルギー需要を満たしつつエネルギー転換を図ることになるアジア諸国にとって、無くてはならないエネルギー源です。中東・北アフリカ諸国と日本は、アジア地域のエネルギー転換においても重要なパートナーとして貢献できるものと考えます。

脱炭素化とエネルギー安全保障を両立させるためのキーワードは、「イノベーションの促進」及び「各国間の協働関係の強化」です。この点において、豊富な地下資源や太陽に恵まれるなど高い再エネポテンシャルを有する中東・北アフリカ諸国は、日本にとって極めて重要なパートナーです。

日本は、中東諸国と協力し、アンモニアや水素の社会実装に向けた技術開発を推進しております。これらの新たなエネルギー源の開発と実用化を加速化し、安定的な供給を実現するためには、「グリーン水素」や「グ

リーン・アンモニア」のみならず、炭素の排出を抑えつつ伝統的な化石燃料を活用した「ブルー水素」及び「ブルー・アンモニア」の活用も重要です。

本年、日本企業は、オマーンの油田からのガスを利用した水素製造に向けたプロジェクトを開始いたしました。また、日本は、サウジアラムコとの間で天然ガスから分離回収した水素をアンモニアに加工する取り組みを行っています。

将来的には、中東・北アフリカ地域で製造された水素やアンモニアのアジアとのサプライチェーンを実現し、共に世界のエネルギー安全保障の強化に向けた両者の協力を推進していくことを期待しております。

日本は、今後とも中東・北アフリカ諸国によるエネルギー転換に向けた努力を力強く支援していくとともに、イノベーションの推進を通じ、世界の脱炭素化を一緒にリードして参ります。

ご清聴有り難う御座いました。(了)